

家畜の暑熱対策と飼養者の熱中症予防

- ◆7月に入ってから連日、高温多湿の日が続いています。
- ◆被害が出る前に、家畜、家さんの暑熱対策を講じましょう。
- ◆飼養者自らが熱中症予防に常日頃から心掛けましょう。
- ◆気候が急変して豪雨、竜巻などが発生する危険性も高まります。人命と安全を最優先して作業にあたりましょう。



家畜、家さんは直射日光の当たらない通気の良い環境で無理無く飼養しましょう

- ◆家畜、家さん飼育者は作業前、作業中に必ず点検しよう！
(農林水産省生産局技術普及課資料参考)



- ①体調は万全ですか？
- ②朝ご飯は食べましたか？
- ③暑さ指数を確認しましたか？
- ④熱中症グッズを活用していますか？
- ⑤緊急連絡先を知っていますか？
- ⑥作業計画に無理はありませんか？
- ⑦作業場所は熱がこもりませんか？
- ⑧2人以上での作業ですか？
- ⑨作業計画に無理はありませんか？
- ⑩水分、塩分補給していますか？

夏の農作業で心がけること



1. 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行いましょう

- ☀️ 特に70歳以上の方は、のどの渇きや気温の上昇を感じづらくなるので、高温時の作業は極力避けましょう

2. 作業前・作業中の水分補給、こまめな休憩をとりましょう

- ☀️ のどが乾いていなくても20分おきに休憩し、毎回コップ1～2杯以上を目安に水分補給しましょう
- ☀️ 足がつったり、筋肉がピクピクする症状がみられたら、0.1～0.2%程度の食塩水（1Lの水に1～2gの食塩）、スポーツ飲料、塩分補給用タブレットを摂取しましょう
※市販品を摂取する際は、必ず成分表示をチェックし、適切な量を摂取してください。
- ☀️ 休憩時は、日陰等の涼しい場所で休憩し、作業着を脱ぎ、手足を露出して体温を下げましょう



3. 熱中症予防グッズを活用しましょう

- ☀️ 屋外では帽子、吸汗速乾性素材の衣服、屋内では送風機やスポットクーラーなどを活用しましょう

4. 単独作業を避けましょう

- ☀️ 作業は2人以上で行うか、時間を決めて水分・塩分補給の声かけを行うなど、定期的に異常がないか確認し合うようにしましょう

5. 高温多湿の環境を避けましょう

- ☀️ 暑さ指数(WBGT)計、温度計、湿度計で、作業環境を確認しましょう。
- ☀️ 作業場所には、日よけを設ける等できるだけ日陰で作業をするようにしましょう
- ☀️ 特にビニールハウス等の施設内は風通しが悪く、早い時期、早い時間から暑さ指数(WBGT)が高くなるため、風通しを良くしたり断熱材を活用しましょう